

『文学国語』実践 ルーブリック評価例

実践 ①構成と展開を工夫して、変身物語を書こう

1. 学習指導の目標

思考力・判断力・表現力 等	A書くこと	ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。 イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 ウ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。 エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。
------------------	-------	--

パフォーマンス課題

- ① 「変身」をテーマに、頭に浮かんだアイデアをノートにメモしよう。
- ② 人物、情景、状況など、細部のメモを増やそう。
- ③ 物語を作ろう。まず物語の冒頭から結末までの流れを構想しよう。そこに場面の細部を加えていこう。
- ④ 時間の流れの中で変化が生じる展開や、「起承転結(四部構成)」「序破急(三部構成)」などの構成に工夫しよう。
- ⑤ 作品にふさわしいタイトルをつけよう。
- ⑥ 五・六人程度のグループを作り、描いた作品を互いに読みあって批評しよう。

2. ルーブリック表

評価の観点	
評価のレベル	
A 十分満足できる	「変身物語」というテーマに沿った物語が書けているとともに、時間の流れの中で変化する展開や物語全体の構成を十分に練ることができた。また、場面の設定や語り手、比喻などの表現技法を関連づけ、読者の想像力をかき立てる工夫を効果的に用いながら創作できた。
B 満足できる	「変身物語」というテーマに沿った物語が書けているとともに、時間の流れの中で変化する展開や物語全体の構成を意識できた。また、場面の設定や語り手、比喻などの表現技法を一つ以上用いながら工夫して創作できた。
C 努力を要する	「変身物語」というテーマに沿った物語が書けてはいるが、時間の流の中で変化する展開や物語全体の構成は不十分だった。また、場面の設定や語り手、比喻などの表現技法への意識が不十分だった。

【評価基準の考え方】

* 「レッスン④」を中心の課題として作成した。「変身物語」を作成していることは前提とし、展開と構成が意識できているか、加えて、教科書六〇一六二ページの「場面設定」「語り手」「表現技法」について意識できているかどうかを基準とした。